高田川新聞

2016年10月31日
発行者
高田川部屋後援会事務局
〒135-0024
東京都江東区清澄2-15-7
www.takadagawa.com

大相撲十一月場所
平成28年11月13日より
15日間
於　福岡国際センター

高田川部屋
十一月場所　福岡道場

福岡県福岡市早良区
小笠木678−1
オイスカ西日本研修センター

高田川部屋では、これからの大相撲を担う15歳から22歳までの新弟子を広く募集しております。
（自薦他薦は問いません）
また、さまざまな特典付の高田川部屋後援会（東京、大阪、名古屋、福岡）もございます。

輝 幕内 初勝ち越し、竜電 十両 復帰

輝　三場所目にして初の幕内勝ち越し

秋の長雨で国技館の周りに傘の花が咲く日の多かった平成二十八年秋場所、高田川部屋の戦士たちは三場所ぶりに勝ち越し力士が二桁の十三名となり、白星の花を咲かせた。

まずはなんと言っても幕内の輝だろう。幕内三場所目にして初の勝ち越しを決めた。スロースターターはまたしても最初の二番で幕内下位に黒星を喫してやきもきさせてくれたが、三日目からは輝らしい突き押しの相撲で三連勝。錦木には敗れたものの、また三連勝。その時点で六勝三敗。勝ち星先行で気持ち的にも余裕が出たのではないか。勝ち越しを決めた十三日目の臥牙丸戦。四十キロも重い相手に正々堂々頭から当たり、下から下から攻めて寄り切った。初の勝ち越しにも表情を崩さず、インタビューにも淡々と答える姿は師匠譲り。翌十四日目も千代の国にあっさり勝って九勝。千秋楽はおしくも十勝目を逃したが、福岡場所では三役、上位力士たちとの対戦も予想されるだけに輝の実力を計る腕試しの場所になりそうだ。

竜電　四年ぶりの十両返り咲き

ちょうど四年前の平成二十四年秋場所で、大雷童、達（現・輝）を飛び越して幕下東十二枚目から全勝優勝し、一気に十両昇進を決めた竜電。高田川親方にとっても初の関取の誕生。しかし、十両となって初めて迎えた十一月場所中日、まさかの悪夢が襲う。右股関節骨折。治療し、治ったと思っても股関節に大きな負担のかかる相撲では再骨折を繰り返す。二年前の九月場所、ついに序ノ口十七枚目まで番付を落とした。しかし、あきらめずに努力し続けた男にようやく相撲の神様は力を与えてくれた。序ノ口から始まる三場所続けての各段全勝優勝。そしてようやくつかんだ再十両のチャンスは今年夏場所千秋楽。のしかかるプレッシャーに押し潰され、攻めきれないまま勝てる勝負を逃した。名古屋場所で奮起の五勝をあげ、再び訪れた二度目のチャンスの九月場所。竜電は三連勝で一気に十両復帰に王手をかけた。しかし、相撲の神様はまたも竜電に試練を強いた。相手に翻弄され、まさかの三連敗。その間に幕下上位は次々と白星を重ねていく。十両下位も踏ん張って、十両のポストにはさほど空きが出そうにない状況。竜電は最後の一番に勝ち、勝ち越して運を天に委ねるしかない。十三日目、運命の十両・若乃島戦。相手も負ければ幕下転落の気合いの入る一番。勝っても負けても悔いのない相撲を取ろう。そう思ったら迷いが吹っ切れた。今年三度目の大銀杏を結った竜電は、立ち合いで強く当たることだけを考えて土俵に立った。前まわしこそ引けなかったが相手を引きつけ落ち着いた相撲で寄り切った。十一月福岡場所、大銀杏の似合う男が色鮮やかなしめ込みとともに四年ぶりの十両の土俵へ帰ってくる。

湘南乃海　幕下昇進

六場所連続の、勝ち越しと自己最高位更新で、若干十八歳の湘南乃海がついに幕下へ昇格する。一九四センチと恵まれた体格。勢いのあるやんちゃ相撲で頭からいきなり三連勝。しかし、あっさり勝ち越しとはいかなかった。三段目も上位となれば相手もうまい相撲を取る。勢いだけでは勝てない。まだまだ自分の未熟さを思い知らされながらも勝ち気だけは誰にも負けずに十二日目ついに勝ち越しを決めた。幕下でもやんちゃな若武者が大いに暴れてくれることに期待したい。

勝武士　自己最高位更新

一六五センチの小さな巨人、勝武士が三場所連続勝ち越しで自己最高位をまたも更新。あと一番勝っていれば幕下昇進も十分あり得た。大相撲の世界では体格による階級制がない。その分、小兵力士への声援も大きいが、同時に相撲の速さやうまさが求められる。初切（しょっきり）担当として地方巡業に帯同している勝武士。他の部屋の力士たちの相撲も大いに学んで次の場所では幕下昇進を決めてほしい。

また、このところ調子の出ていなかった須磨ノ海が五勝、前大将も連続勝ち越しで三段目が見えてきた。

幕下勢も奮起

竜電が十両復帰を決め、安芸乃川も三場所ぶりに勝ち越して幕下十五枚目以内に戻ってくる。体調を崩して二場所連続二勝しかあげられなかった白鷹山も徐々に体調は上向き。相撲に粘りが出るようになり、三場所ぶりの勝ち越しを決めた。各段の間には当然大きな差異があるが、特に十両と幕下の間にはとてつもなく広くて流れの速い川がある。渡ろうとすれば小さなミスで簡単に足元を掬われ、すぐに激流に飲み込まれてしまう。日々精進し、高田川部屋三人目の関取を目指して、幕下勢が激流を見事に渡りきってくれることを願っている。

＜ご当地力士紹介＞

福岡出身の大雷童です。
中学の恩師の紹介で高田川部屋に入門しました。
真正面から根こそぎもってゆく押し相撲を取れるよう九州場所でも頑張ります。応援よろしくお願いします。
本名：山口智史　（昭和55年4月17日生）

※表記の番附は正式発表前の予想

幕内	輝	先場所	9勝6敗	●●○○○●●○○●○●○●●
十両	竜電	先場所	4勝3敗	○○○●●●○
幕下	安芸乃川	先場所	4勝3敗	○○●○○○●●
〃	白鷹山	先場所	4勝3敗	●○●○○●○
〃	安芸乃山	先場所	2勝5敗	○●●●○○●
〃	湘南乃海	先場所	4勝3敗	○○○●●○●
三段目	大乗	先場所	4勝3敗	●●○○○●○
〃	勝武士	先場所	4勝3敗	○●○○○●●
〃	大野城	先場所	4勝3敗	●○○○●●○
〃	須磨ノ海	先場所	5勝2敗	○○●○○○●
〃	恵比寿丸	先場所	3勝4敗	●○○●○●●
〃	剛力山	先場所	1勝6敗	●○●●●●●
〃	暁	先場所	4勝3敗	○●●○●○○
〃	太熊	先場所	4勝3敗	○○○●●●○
〃	前乃富士	先場所	2勝5敗	●○●○●●●
〃	前大将	先場所	4勝3敗	○●○○●●○
序二段	大雷童	先場所	全休	ややややややや
〃	櫻	先場所	2勝5敗	●●○○●●●

序盤戦は動きが硬かったが、すぐに体もしっかりと動け、手もよく伸びるようになった。番付が上がっても跳ね返されないよう二桁勝つ気持ちで頑張りたい。

先手を取ることで力の出る体勢になれた。精神的に追い込まれないようにすることと稽古、体調管理をしっかりやって十両で勝ち越し以上を目指して頑張りたい。

勝ち越せたものの、相手の力を利用して勝とうとし過ぎた。最低五番は勝って来年への足掛かりにしたい。

三場所ぶりに勝ち越せて少しホッとした。来場所はしっかりと体を作り、大勝ちできるように頑張りたい。

勝負を焦ってすぐにはたたいたりと悪いところが出ていた。前に出る意識を強くして次へは勝ち越したい。

体が動いて相撲を思いっきり取れた。幕下ではもっと前に出る相撲を磨いて大勝ちの勝ち越しを狙いたい。

足が前に出て落ち着いて相撲が取れた。地元場所ではより一層気合いを入れて勝ち越すよう頑張りたい。

小さな体をもっと生かすこと。そして九州場所でも何事にも動じず常に平常心で相撲に取り組みたい。

全体的に攻める相撲が多く取れた。腰をしっかり落とし、ご当地場所で勝ち越して幕下復帰したい。

勝ち越せたがまだ足りないところが多い。足腰を強化して最低でも勝ち越して、いい結果で来年を迎えたい。

まだ負け越してしまった。自分の相撲を磨き、今年最後の場所を勝ち越して終えて来年の番付に繋げたい。

攻めが遅く、まわしを取れなかった。しっかりと基礎運動をして前に攻める相撲を取っていきたい。

四場所ぶりの勝ち越し。よい攻めをして流れに乗って、ここからは三場所以上続けて勝ち越したい。

四場所ぶりに勝ち越せて二段目へ戻ることができた。続けて勝ち越して来年へ弾みをつけたい。

大きい相手を押し切れず結果が出せなかった。どんな相手にも前に出て押し切る自分の相撲で勝ちたい。

連続勝ち越しできた。次も勝ち越して三段目にあがることと力をつけて前みつを取れるようにしたい。

相撲を取れる有難さを実感している。休場明けで番付も下がったが、地元場所で優勝を狙っていきたい。

先場所は、勝五敗で大きく負け越してしまった。今年最後の場所はなんとしても勝ち越せるよう頑張りたい。

※大神風、鶴乃湖の二名は、九月場所をもちまして引退いたしました。

三役行司　式守勘太夫の　輝関　勝ち越しの祝「輝大士　相撲甚句」

輝やけ輝　相撲の申し子よー
ハー七尾生まれの快男児　その名も勇ましき達綾哉
輝中学時代は武者修行　恩師を頼りて金沢へ
西南部中学入学し　中学横綱張った期に
力士を目指して上京は　たたく名門高田川
師匠はあの鬼軍曹　安芸乃島
ぶつかり稽古で砂をかみ　日々鍛練に明けくれて
心気一体兼ね備え　いつか必ず横綱と
夢に邁進精進は　見事関取の座をものにして
皆の期待を集めつつ　輝大士に改名し
十両突破し幕内に　高き長身長き腕
するどい速功さえにさえ　目出たくこの度勝越に
胸を張っての里帰り
羽ばたけ輝　郷土の誇りょー　アードスコイ
（作詞　十一代　勘太夫）

勝武士の　すもうのす

初切とは、巡業の時などに相撲の決まり手と禁じ手を面白おかしく表現するもので、初切の初は初め、切とは終わりを意味し、江戸時代からある技から技へと移り変わる妙技です。初切を始めて三年目。本来は同部屋の力士で組みますが、東関部屋の高三郷さんと組んでわかりやすく伝えるよう努めています。

＜ご案内＞

高田川部屋　千秋楽祝賀会
平成28年11月27日（日）午後6時半開場
※ 会場は、高田川部屋 福岡道場にて（会費制）

後援会、千秋楽祝賀会、四人マス席、新弟子募集など
各お問い合わせ・お申込み　行司　式守 勘太夫 まで
電話　090-3215-6524

高田川親方の　喝！

輝は場所後に地元後援会の発足式があるというのに、相も変わらず出だし二連敗。発奮させると目が覚めて、中盤からは強い相撲が取れ出し、幕内でやっていけると確信した。精進し、この勢いを持続して次の課題は三役に上がって勝てる力をつけることだ。

竜電は、三連勝の後の三連敗。「この一番で運命が変わる。命がけで戦え」と言った。最後の一番は力強いいい相撲だった。医者からは再起不能とまで言われたのに、この四年間よく頑張った。

全体的には、まだまだ白星が足りない。他の者も自分の思っている以上に努力し、頑張っていかなくてはいけない。